

⑤ 診療所の主たる医師の、精神科医としての専門性

a) 精神保健指定医

	n=623	
	回答件数	回答率
1.はい 2.いいえ		
はい	586	94.1%
いいえ	37	5.9%

b) 日本精神神経学会専門医

	n=618	
	回答件数	回答率
1.はい 2.いいえ		
はい	518	83.8%
いいえ	100	16.2%

c) 日本医師会認定産業医

	n=604	
	回答件数	回答率
1.はい 2.いいえ		
はい	172	28.5%
いいえ	432	71.5%

大多数の医師が精神保健指定医、日本精神神経学会専門医などの精神科医療の専門性を担保する資格を取得している。また、日本医師会認定産業医の資格も3割近くが取得している。

⑥ 受診患者数

	(イ)患者数	(イ)男性患者数	(イ)女性患者数	(イ)初診患者数
	n=604	n=594	n=594	n=601
合計患者数	33,122.0	14,324.0	18,238.0	1,349.0
平均	54.8	24.1	30.7	2.2
標準偏差	38.7	22.8	19.7	3.6
最大	386	290	152	45
最小	1	0	0	0

一日の受診患者の平均は約55名、新患の受け入れは平均約2名であった。

⑦ 平成 22 年 11 月 15 日(月)の患者数とその科別内訳(当日が休診の場合は翌日)

	精神科 n=595	てんかん n=248	内科 n=224	その他 n=150
合計患者数	29,431	834	1,351	809
平均	49.5	3.4	6.0	5.4
標準偏差	36.6	15.5	12.3	14.7
最大	386	164	98	114
最小	0	0	0	0

受診患者のほとんどは精神疾患で、一部内科疾患も受け持っている。

⑧ 経営状態

精神科だけで

	n=563	
	回答件数	回答率
かなり赤字	32	5.7%
少々赤字	71	12.6%
なんとか維持できる	301	53.5%
少々ゆとりがある	126	22.4%
ゆとりがある	33	5.9%

貴院全体として

	n=498	
	回答件数	回答率
かなり赤字	25	5.0%
少々赤字	52	10.4%
なんとか維持できる	277	55.6%
少々ゆとりがある	116	23.3%
ゆとりがある	28	5.6%

昨年と比べて

	n=476	
	回答件数	回答率
収入上昇	51	10.7%
収入減少	306	64.3%
横ばい	119	25.0%
計	476	100.0%

昨年と比べて

	n=418	
	回答件数	回答率
収入上昇	48	11.5%
収入減少	268	64.1%
横ばい	102	24.4%
計	418	100.0%

経営に危機感を持つ回答が多かった。また、約 65%が、前年度と比較し、精神科の収入が減少したと回答した。

⑧ 行っている精神科治療

	n=617	
	回答件数	回答率
通院・在宅精神療法	613	99.4%
森田療法	23	3.7%
精神分析療法	52	8.4%
催眠療法	4	0.6%
作業療法	8	1.3%
認知・行動療法	76	12.3%
家族療法	34	5.5%
東洋医学	37	6.0%
集団精神療法	47	7.6%
芸術療法	10	1.6%
デイケア	133	21.6%
ショートケア	38	6.2%
ナイトケア	60	9.7%
訪問診療	102	16.5%
精神科訪問看護	122	19.8%
その他	19	3.1%

デイケア	n=130	
	回答件数	回答率
54 規模	71	54.6%
②大規模	56	43.1%
③重度認知症	12	9.2%
重複		
① ②	2	
① ③	2	
② ③	5	

21.6%の診療所がデイケアを、9.7%の診療所がナイトケアを実施している。デイケアのうち54.6%が小規模デイケアであり、また、9.7%が重度認知症患者デイケアであった。精神科訪問看護を19.8%の診療所が行っており、訪問診療も16.5%の診療所で行われていた。認知・行動療法を実施しているのは12.3%であった。

⑨ 診療所以外での活動(精神科医として)

	n=563	
	回答件数	回答率
学校	133	23.6%
保健所	168	29.8%
医療系学校講師	82	14.6%
行政関係	202	35.9%
司法関係	61	10.8%
鑑定業務	115	20.4%
成年後見鑑定業務	236	41.9%
産業医・顧問医	189	33.6%
精神医療審査会委員	39	6.9%
自立支援医療・精神保健福祉手帳等審査会委員	67	11.9%
老人施設	164	29.1%
精神障害者福祉施設	162	28.8%
身体障害者, 知的障害者の施設	93	16.5%
障害程度区分判定審査委員	130	23.1%
介護保険の認定審査委員	109	19.4%
認知症サポート医	69	12.3%
その他	78	13.9%

学校	n=133	
	回答件数	回答率
普通	22	16.5%
養護	23	17.3%
不明	95	71.4%

司法関係	n=61	
	回答件数	回答率
警察	5	8.2%
家裁	3	4.9%
その他	1	1.6%
不明	53	86.9%

精神障害者福祉施設

	n=162	
	回答件数	回答率
生活訓練施設	28	17.3%
福祉ホーム	13	8.0%
授産施設	50	30.9%
作業所	87	53.7%
グループホーム	71	43.8%
入所施設	21	13.0%
その他	19	11.7%
不明	12	7.4%

(自身で経営)

	n=162	
	回答件数	回答率
生活訓練施設	5	3.1%
福祉ホーム	3	1.9%
授産施設	4	2.5%
作業所	6	3.7%
グループホーム	16	9.9%
入所施設	1	0.6%
その他	10	6.2%
不明	138	85.2%

精神障害者福祉施設等に関わる事は勿論のこと, 精神科校医, 保健所嘱託医, 鑑定業務, 産業医, 老人施設・精神障害者福祉施設等の顧問医等, 診療所を離れての地域精神保健活動は多岐にわたっている。

⑪ 生涯教育への取り組み

1.日精診 2.地区協会 3.その他の学会 4.医師会の研究会

	n=563	
	回答件数	回答率
日精診	373	66.3%
地区協会	236	41.9%
その他の学会	415	73.7%
医師会の研究会	330	58.6%

専門医資格所得者が多かったことは先に述べたが、その裏付けとなる自己研鑽に取り組む様子が理解される。

⑫ 診療報酬からみた診療活動

a) 地域医療貢献加算の算定

1.はい 2.いいえ	n=526	
	回答件数	回答率
はい	56	10.6%
いいえ	470	89.4%

b) 訪問看護ステーションの利用

1.はい 2.いいえ	n=525	
	回答件数	回答率
はい	235	44.8%
いいえ	290	55.2%

c) 往診の実施

1.はい 2.いいえ	n=536	
	回答件数	回答率
はい	214	39.9%
いいえ	322	60.1%

d) 訪問診療の実施

1.はい 2.いいえ	n=523	
	回答件数	回答率
はい	92	17.6%
いいえ	431	82.4%

e) 在宅療養支援診療所

1.はい 2.いいえ	n=527	
	回答件数	回答率
はい	29	5.5%
いいえ	498	94.5%

回答した診療所の約 40%が往診、約 18%は訪問診療を行っていた。また、ほぼ半数の診療所は訪問看護を活用していた。地域医療連携加算を請求している診療所は 10.6%であった。また、在宅療養支援診療所となっている診療所が 5.5%あった。

⑬ ケースワークの実施

	n=498	
	回答件数	回答率
診療所では行えないと割り切っている	165	33.1%
経費が掛かるがケースワークのために(看護師・PSW・臨床心理技術者)を採用している。	173	34.7%
事務職員を育てて活用している。	44	8.8%
デイケア・ショートケアを行うことでケースワークも行えるようにしている。	62	12.4%
訪問看護を行うことでケースワークも行えるようにしている。	46	9.2%
その他	126	25.3%

ケースワークに対して診療報酬上の評価が無いため、ケースワークを断念している診療所が約 33%ある一方、自前でケースワークを担当する専門職を雇用している診療所が約 35%あった。デイケア・ショートケア、訪問看護を利用してケースワークを実施している診療所が約 20%あった。

#### 4) 調査票Ⅱ(新規受診問合せ調査)の結果

表8. 調査票Ⅱ 新規受診問合せ方法

受付方法	人数	(%)
直来	273	22.8%
電話	767	64.1%
FAX	0	0.0%
メールウェブサイト	0	0.0%
その他	5	0.4%
記入なし	151	12.6%
合計	1196	100.0%

調査票は、36 診療所から 1196 枚返送され、1カ所当たり 5～80 枚で、平均 33.2 枚であった。新規受診に関する問い合わせ（受付期間は 2 月 7 日から 3 月 6 日まで）の診療所への受付の方法を表 8 に示す。電話での受付が最も多くなった。

受付時間は表 9、対象者の性別と年齢は表 10 のとおりである。時間帯では午前中が多く、次いで午後 15～16 時が多い。女性のほうが 1.5 倍多く、年代では 20 代から 30 代が多いことがわかる。

表9. 調査票Ⅱ 受付日時

受付日	問合せ数	(%)
2/7～2/13	306	25.6%
2/14～2/20	317	26.5%
2/21～2/27	275	23.0%
2/28～3/6	277	23.2%
記入なし	0	0.0%
範囲日程対象外	21	1.8%
合計	1196	100.0%

受付時間	人数	(%)
8時	41	3.4%
9時	216	18.1%
10時	197	16.5%
11時	171	14.3%
12時	80	6.7%
13時	46	3.8%
14時	76	6.4%
15時	110	9.2%
16時	111	9.3%
17時	68	5.7%
18時	28	2.3%
19時	7	0.6%
20時	1	0.1%
記入なし	44	3.7%
合計	1196	100.0%

表10. 調査票Ⅱ 性別・年齢

性別	該当数	(%)
男	472	39.5%
女	712	59.5%
記入なし	12	1.0%
合計	1196	100.0%

年齢	人数	(%)
10代未満	8	0.7%
10代	113	9.4%
20代	217	18.1%
30代	208	17.4%
40代	151	12.6%
50代	103	8.6%
60代	69	5.8%
70代	73	6.1%
80代	58	4.8%
90代	6	0.5%
記入なし	190	15.9%
合計	1196	100.0%

平均	41.68
SD	20.38
MIN	5
MAX	96

新規問い合わせ患者のそれまでの精神科受診歴（表 11）を見ると、通院歴なしが 646 人（54.0%）で過半数を占めていた。そのうち、精神科以外の診療科から受診勧告を受けて来院した者は 110 人（17.0%）であった。精神科通院中の 185 人のうち 142 人は転院希望であり、セカンドオピニオンを求めてきたものは 17 人であった。通院中断していたものは 121 人であった。

表11. 調査票II 精神科受診歴

受診歴	人数	(%)
現在、他精神科医療機関へ通院している	185	15.5%
精神科診療所	103	55.7%
精神科単科病院	13	7.0%
総合病院の精神科	26	14.1%
記入なし	43	23.2%
<u>受診理由</u>		
転院希望	142	
セカンドオピニオン	17	
記入なし	26	
精神科通院歴なし	646	54.0%
他診療等からの精神科受診勧告あり	110	17.0%
他診療等からの精神科受診勧告なし	245	37.9%
記入なし	291	45.0%
現在は通院していない	121	10.1%
その他	31	2.6%
記入なし	213	17.8%
合計	1196	

表12. 調査票II 精神科への最終通院年月日

最終通院年	累計	(%)
2011～	4	3.3%
2006～2010	59	52.1%
2001～2005	20	68.6%
1996～2000	6	73.6%
1991～1995	0	73.6%
～1990	2	75.2%
記入なし	30	100.0%

表13. 調査票II 紹介状

紹介状の有無	該当者数	(%)
あり	168	14.0%
なし	806	67.4%
記入なし	222	18.6%
合計	1196	100.0%

紹介状を持ってきたのは168人であった(表13)。他の精神科医療機関通院中で受診された185人のうち、紹介状を持ってきたのは63人(34.1%)のみであった(表14)。

表14. 調査票II 通院先の病院と紹介状の有無

通院先	紹介状				合計	(%)
	あり	(%)	なし	(%)		
現在、他精神科医療機関へ通院している	63	34.1%	95	51.4%	185	100.0%
精神科診療所	32	50.8%	57	60.0%	103	55.7%
精神科単科病院	5	7.9%	6	6.3%	13	7.0%
総合病院の精神科	11	17.5%	12	12.6%	26	14.1%
記入なし	15	23.8%	20	21.1%	43	23.2%



新規受診問い合わせ者に対して行った診療所の対応内容は表 15 のとおりである。

表15. 調査票Ⅱ 診療所の対応内容

診療所の対応	該当者数	(%)
即日診療した	314	26.3%
診療予約をした	563	47.1%
診療しないことになった	205	17.1%
精神科他院を紹介	31	15.1%
身体科他院を紹介	17	8.3%
医療機関紹介せず	157	76.6%
その他	65	5.4%
記入なし	49	4.1%
合計	1196	100.0%

1196 人中、314 人 (26.3%) はその日のうちに受診し、563 人 (47.1%) は予約を取った。診療しないことになった 205 人のうち 157 人は他の医療機関紹介などは行わなかった。その他は、日程を確認してまた連絡する、など保留になった場合が多い。

新規受診問い合わせ者のうち、同日に受診または診療を予約した人の受診日までの期間を表 16 と図 3 に示す。全体の 73.4% が 1 週間以内に受診する予約を取っていた。一方、4 週間以上先の予約を取った者も 47 人いて、最大では 60 日先であった。

表16. 調査票Ⅱ 診療予約日

予約日	該当数	累積	(%)
当日	314	314	35.8%
1~7	330	644	73.4%
8~14	114	758	86.4%
15~21	41	799	91.1%
22~28	22	821	93.6%
29~35	30	851	97.0%
36~42	16	867	98.9%
42以上	1	868	99.0%
記入なし	9	877	100.0%
MIN	0		
MAX	60		
平均	8.40		
SD	9.61		
中央値	5.00		

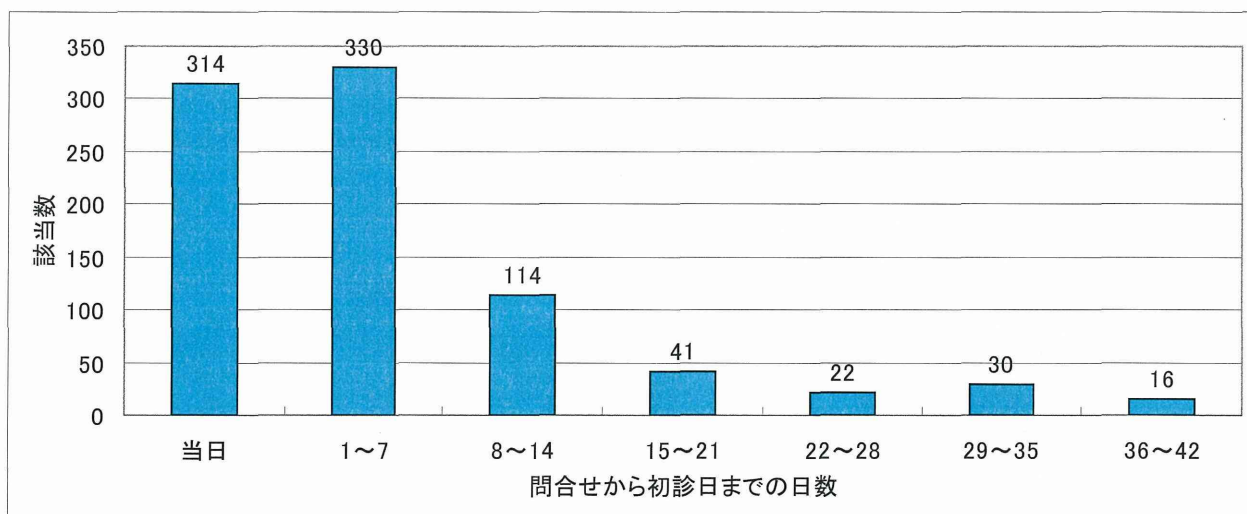


図 3 問い合わせから初診日までの日数

4) 調査票Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ(コホート調査)の結果

新規受診患者(受付期間は2月7日から3月6日まで)は, 36診療所で1002人であった。

来院時間は午前中が多く, 午後3時に再度のピークがある。20時台でも4人の新規患者が受け付けられている(表17)。新規受診患者の性別は女性の方が多く, 60.0%を占めていた。年代では20代が最も多く, 次いで30代, 40代であった。10歳未満は3人, 90代が9人であった(表18)。

表17. 調査票Ⅲ 来院日時

来院日	人数	(%)
2/7~2/13	218	21.8%
2/14~2/20	251	25.0%
2/21~2/27	273	27.2%
2/28~3/6	250	25.0%
記入なし	0	0.0%
範囲日程対象外	10	1.0%
	1002	100.0%

来院時間	人数	(%)
8時	12	1.2%
9時	92	9.2%
10時	153	15.3%
11時	138	13.8%
12時	86	8.6%
13時	48	4.8%
14時	89	8.9%
15時	125	12.5%
16時	102	10.2%
17時	81	8.1%
18時	43	4.3%
19時	12	1.2%
20時	4	0.4%
不明	9	0.9%
記入なし	8	0.8%
	1002	100.0%

表17. 調査票Ⅲ 性別・年齢

性別	該当数	(%)
男	400	39.9%
女	601	60.0%
記入なし	1	0.1%
	1002	100.0%

年齢	人数	(%)
10代未満	3	0.3%
10代	100	10.0%
20代	223	22.3%
30代	187	18.7%
40代	150	15.0%
50代	87	8.7%
60代	92	9.2%
70代	79	7.9%
80代	68	6.8%
90代	9	0.9%
記入なし	4	0.4%
	1002	100.0%

平均	43.38477
SD	20.96025
MIN	1
MAX	96

初診暫定診断名については(表19), F4神経症性障害が最も多く, 次いでF3気分障害となっており, 合わせて3/4を占めていた。発症からの期間は1~3か月が最も多いが, 10年以上経過しているものも83人おり, ばらつきが大きかった。特に発症からの期間が経過しての受診割合が高いのは, F1アルコール・薬物と, F6人格障害であった。

表19. 調査票Ⅲ 発症からの期間と初診時暫定診断名

期間	暫定主病名													
	F0:器質性精神障害 (%)	F1:アルコール・薬物による精神・行動の障害 (%)	F2:統合失調症型障害 (%)	F3:気分[感情]障害 (%)	F4:神経症性障害 (%)	F5:生理・身体的要因に関連した行動症候群 (%)	F6:成人の人格・行動の障害 (%)	F7:精神遅滞 (%)	F8:心理的発達の障害 (%)	F9:小児・青年期の情緒・行動の障害 (%)	F10:てんかん (%)	その他 (%)	記入なし (%)	合計 (%)
合計	90	9.0%	14	1.4%	60	6.0%	306	30.5%	437	43.6%	32	3.2%	14	1.4%
1ヶ月以内	7	7.8%	1	7.1%	4	6.7%	45	14.7%	75	17.2%	4	12.5%	1	7.1%
3ヶ月以内	9	10.0%	0	0.0%	7	11.7%	55	18.0%	77	17.6%	3	9.4%	1	7.1%
6ヶ月以内	8	8.9%	0	0.0%	3	5.0%	41	13.4%	73	16.7%	4	12.5%	0	0.0%
1年以内	9	10.0%	2	14.3%	5	8.3%	42	13.7%	53	12.1%	5	15.6%	0	0.0%
3年以内	34	37.8%	0	0.0%	9	15.0%	49	16.0%	53	12.1%	5	15.6%	3	21.4%
5年以内	12	13.3%	2	14.3%	2	3.3%	20	6.5%	20	4.6%	5	15.6%	2	14.3%
10年以内	5	5.6%	2	14.3%	6	10.0%	18	5.9%	20	4.6%	2	6.3%	0	0.0%
10年以上	1	1.1%	7	50.0%	15	25.0%	17	5.6%	32	7.3%	3	9.4%	6	42.9%
不明	2	2.2%	0	0.0%	5	8.3%	9	2.9%	20	4.6%	1	3.1%	1	7.1%
記入なし	3	3.3%	0	0.0%	4	6.7%	10	3.3%	14	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
合計	12	1.2%	9	0.9%	3	0.3%	2	0.2%	11	1.1%	12	1.2%	1002	100.0%
1ヶ月以内	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	27.3%	2	16.7%	143	14.3%
3ヶ月以内	1	8.3%	1	11.1%	0	0.0%	1	50.0%	1	9.1%	2	16.7%	158	15.8%
6ヶ月以内	1	8.3%	1	11.1%	1	33.3%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	133	13.3%
1年以内	1	8.3%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%	1	8.3%	120	12.0%
3年以内	0	0.0%	1	11.1%	1	33.3%	1	50.0%	0	0.0%	3	25.0%	159	15.9%
5年以内	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	65	6.5%
10年以内	2	16.7%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	56	5.6%
10年以上	3	25.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	85	8.5%
不明	1	8.3%	2	22.2%	0	0.0%	0	0.0%	3	27.3%	1	8.3%	45	4.5%
記入なし	3	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	18.2%	2	16.7%	38	3.8%

初診患者の他院精神科受診歴については、676人(67.5%)は無しであった(表20)。受診歴の内訳は、精神科診療所が最も多かった。

表20. 調査票Ⅱ 精神科受診歴

受診歴	人数	(%)	
精神科の受診歴			
受診歴なし	676	67.5%	
受診歴あり	316	31.5%	
精神科診療所	171	54.1%	
精神科単科病院	27	8.5%	
総合病院の精神科(病院の特定なし)	59	18.7%	
不明	7	0.7%	
記入もれ	3	0.3%	
合計	1002	100.0%	
初診	累計		
～1990	14	14	4.4%
1991～1995	11	25	7.9%
1996～2000	13	38	12.0%
2001～2005	52	90	28.5%
2006～2010	147	237	75.0%
2011～	19	256	81.0%
記入なし	60	316	100.0%

表21. 調査票Ⅲ 精神科の入院歴

なし	948
あり	38
不明	7
記入もれ	9

初診患者の日中活動については、常勤・非常勤の就労中と通学中を合わせると 541 人（54.0%）に上った。一方で、主な家事や福祉施設等への通所もしておらず、休職・休学中でもない者が 198 人（19.8%）を占めていることがわかった。

表22. 調査票Ⅲ 現在の日中活動

活動内容	該当者数	(%)
常勤就労中	350	34.9%
非常勤就労中	89	8.9%
通学中	102	10.2%
福祉施設等への通所	16	1.6%
休職・休学中	55	5.5%
主な家事を担当	182	18.2%
特に活動していない	198	19.8%
記入なし	10	1.0%
合計	1002	100.0%

表23. 調査票Ⅲ 就労経験 (%)

常勤の一般就労経験			
なし	245	24.5%	
あり	586	58.5%	
記入なし	45	4.5%	
不明	126	12.6%	
合計	1002	100.0%	
非常勤・アルバイト等の一般就労経験			
なし	449	44.8%	
あり	210	21.0%	
記入なし	119	11.9%	
不明	224	22.4%	
合計	1002	100.0%	
保護的就労経験			
なし	749	74.8%	
あり	6	0.6%	
記入なし	119	11.9%	
不明	128	12.8%	
合計	1002	100.0%	
社会復帰を目的とした通所経験			
なし	750	74.9%	
あり	14	1.4%	
記入なし	115	11.5%	
不明	123	12.3%	
合計	1002	100.0%	

現在の生活形態は、796 人（79.4%）が家族と同居で、同居家族で最も多いのは配偶者で、次いで母、子ども、父の順であった（表 24）。

表24. 調査票Ⅲ 現在の生活形態

生活形態	該当者数	(%)
家族と同居	796	79.4%
父	230	28.9%
母	277	34.8%
配偶者	357	44.8%
子	264	33.2%
兄弟姉妹	125	15.7%
その他	61	7.7%
記入なし	312	39.2%
自宅またはアパート等	156	15.6%
グループホーム入居	2	0.2%
退院促進施設入居	0	0.0%
高齢者入居施設	10	1.0%
その他	13	1.3%
不明	10	1.0%
記入なし	15	1.5%
合計	1002	100.0%

表25. 調査票Ⅲ 診療所を知った経緯

経緯	該当者数 (%)	
1:他の精神科医師からの紹介	69	6.9%
2:他の身体科医師からの紹介	167	16.7%
3:知人の紹介	325	32.4%
4:公的機関からの紹介	94	9.4%
自分で調べた	330	32.9%
特定していない	43	13.0%
インターネット	194	58.8%
本、雑誌	8	2.4%
その他	85	25.8%
記入なし	17	1.7%
合計	1002	100.0%

今回受診した診療所を知った経緯(表25)は、自分で調べた330名(32.9%)、知人の紹介325名(32.4%)が拮抗していた。診療所を選んだ決め手(表26)は、「医師がよさそう」377名(37.6%)、「立地が便利」325名(32.4%)で、合わせると2/3を占めた。その他136名(13.6%)は、「紹介を受けたから」という内容がほとんどを占めていた。

表26. 調査票Ⅲ 診療所を選んだ決め手

条件	該当者数 (%)	
立地が便利	325	32.4%
医師がよさそう	377	37.6%
院内の雰囲気によさそう	46	4.6%
心理カウンセリング	31	3.1%
欲しいサービスがあったその他	25	2.5%
その他	136	13.6%
記載漏れ	62	6.2%
合計	1002	100.0%

今後の治療についての初診の見立ては、8割が定期的通院必要となっており、他院への紹介はわずか21名(2.1%)であった。他院紹介の理由は、器質性障害や合併症疑いが大半を占めていた。その他が85人(8.5%)を占めていたが、その内容は「カウンセリングを案内」「薬が欲しいときだけなどの不定期な通院」「主治医へ戻した」「セカンドオピニオンや診断書のみ希望」などが多かった。

表27. 調査票Ⅲ 今後の治療について

治療方法	該当者数 (%)	
定期的な通院が必要	805	80.3%
他院への紹介	21	2.1%
他精神科外来	10	47.6%
精神科入院	4	19.0%
他科	7	33.3%
通院不要	49	4.9%
その他	85	8.5%
記入なし	36	3.6%
他院への紹介(特定の紹介先なし)	6	0.6%
合計	1002	100.0%

新規受診患者調査へ回答のあった患者 1002 人分のうち、半年後の調査票の返送があったのは、25 診療所 737 人分（回収率 73.6%）であり、その内、半年後通院中であったのは 261 人(35.4%)であった。その 261 人中、平成 24 年 3 月(新規受診患者調査から一年後)に通院中であったのは 209 人(80.0%)であった。1 回の通院で終わったのは 193 人（26.2%）、3 か月までに通院を終了したのは 418 人（56.6%）であった（表 28、図 4）。

通院終了までの通院回数は、平均 4.0 回、最大で 36 回であった。

表 28 通院日数

通院日数	人数	累積	%
1日のみ	193	193	26.2%
30日未満	120	313	42.4%
60日未満	58	371	50.3%
90日未満	47	418	56.6%
120日未満	38	456	61.8%
150日未満	13	469	63.6%
180日未満	17	486	65.9%
210日未満	11	497	67.3%
240日未満	5	502	68.0%
270日未満	10	512	69.4%
300日未満	3	515	69.8%
330日未満	4	519	70.3%
360日未満	6	525	71.1%
390日未満	1	526	71.3%
398日	1	527	71.4%
通院中	209	736	99.7%
記入漏れ	2	738	
合計	738		100.0%

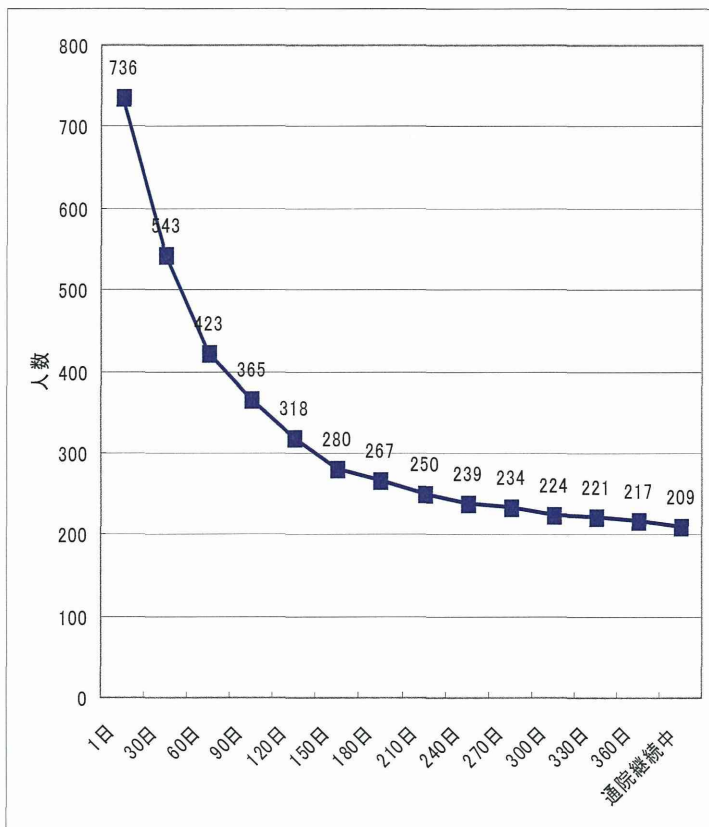


図 4 新患患者の通院継続者数

現在受診していない理由は、治療中断が47%を占め、治療終了18%、転院13%であった。その他の理由としては、最初からセカンドオピニオンが目的であった、引っ越しや仕事の都合などで通院ができなくなった等である(図5)。

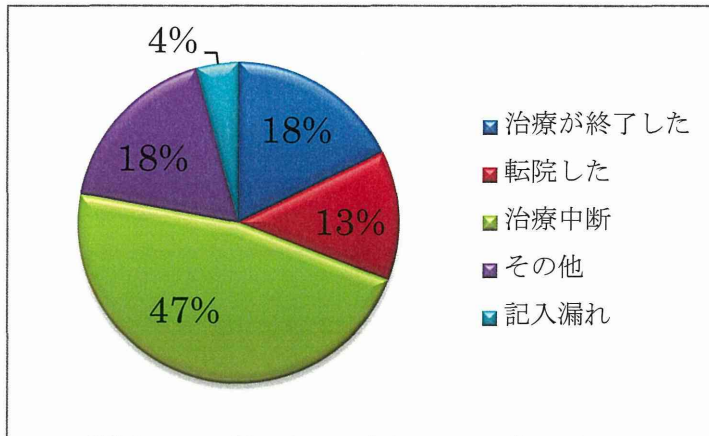


図5 受診していない理由

新患調査で患者に聞き取ってもらった「その診療所を選んだ決め手」と、現在の通院状況や受診していない理由の関係を見ると(図6)、「医師がよさそう」および「心理カウンセリング」を決め手に受診した患者は、治療中断率が少なく、通院中もしくは治療終了に至った割合が高いことがわかった。決め手のその他は、家族や知人の勧めなどによるものが多かったが、他に予約がいらずに受診できたなども見られた。

受診に至った経緯と現在の通院状況や受診していない理由の関係を見たところ(図7)、自分で調べて受診した場合は、医師や知人の紹介で受診した場合よりも中断する割合がやや多いことがわかった。

年代別に診療所を選んだ決め手に違いがあるかどうかを見たところ(図8)、心理カウンセリングを求める人は10代~30代が中心で比較的若い年代に人気があり、60代を越えると心理カウンセリングを求める人は減っていた。

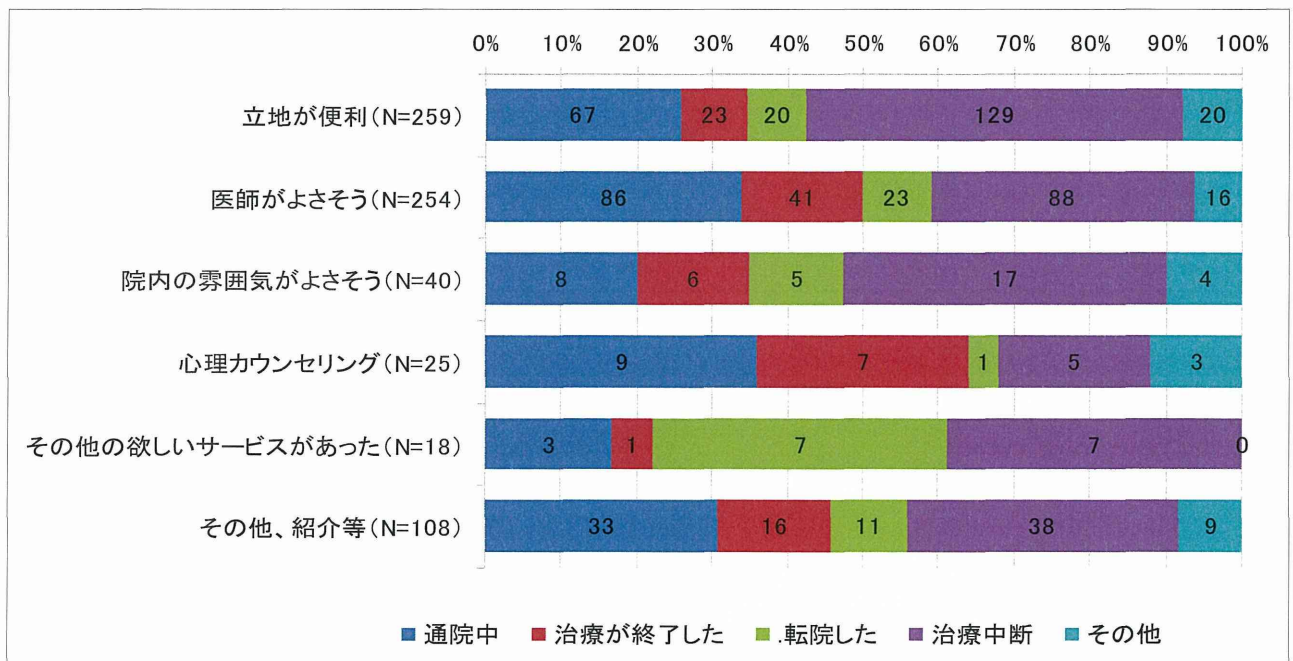


図6 診療所を選んだ決め手と通院状況および受診していない理由の関係

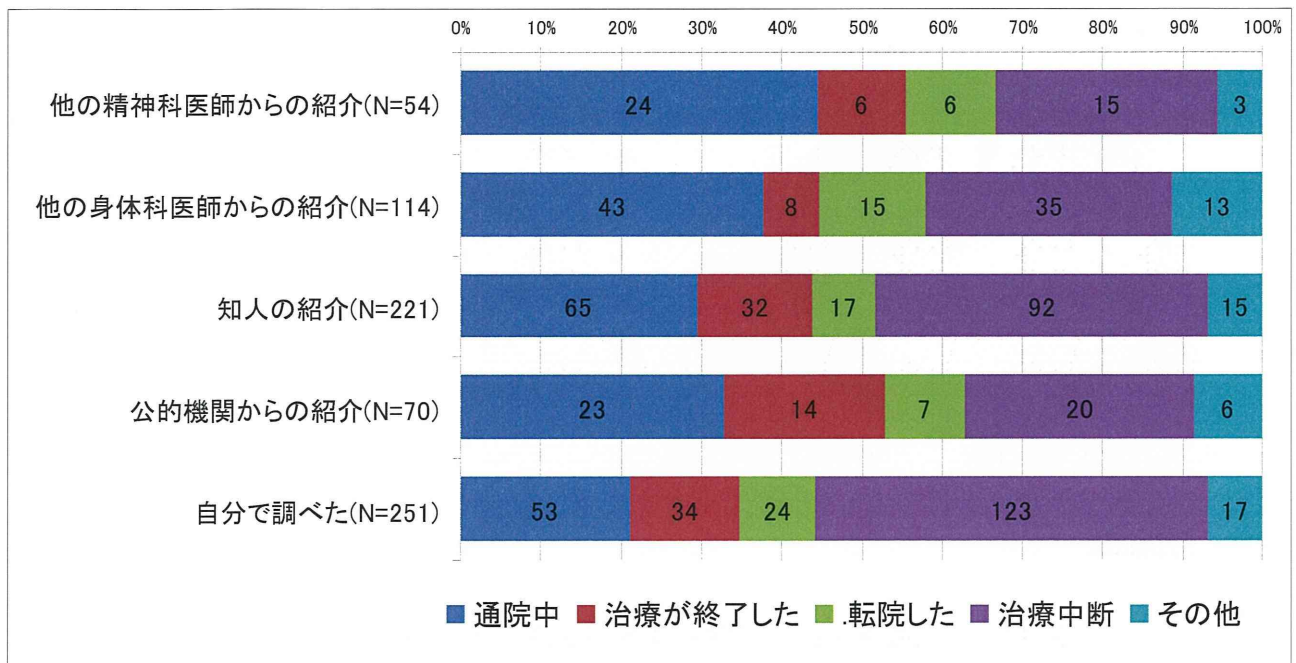


図 7 受診に至った経緯と現在の通院状況や受診していない理由の関係

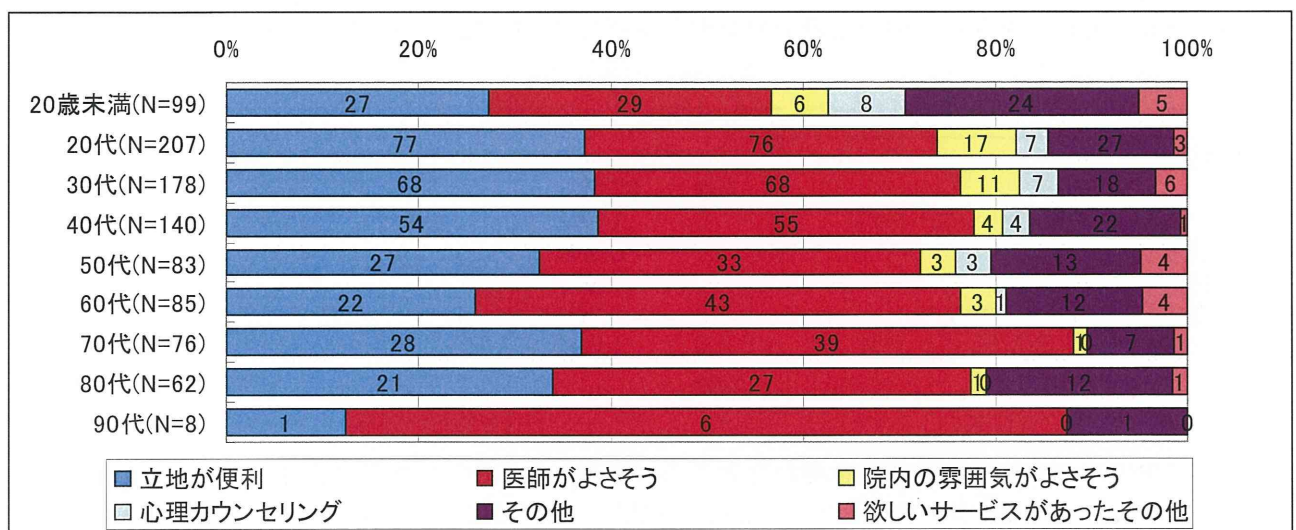


図 8 診療所を選んだ決め手と年齢の関係



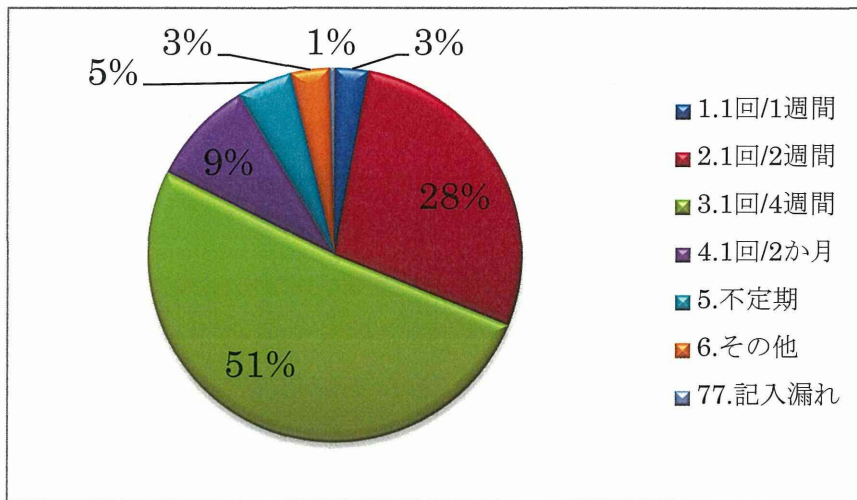


図9 通院頻度

現在通院している209人の通院頻度は、4週間に1回が51%で最も多く、次いで2週間に1回で28%であった。(図9)

現在通院している患者が、外来診療以外に同院で利用しているサービスがあるかどうかを聞いたところ、182人(87.08%)がないと答えた(表29)。

利用サービスで最も多かったのは心理カウンセリングで11人(5.26%)であった。

表29 利用している外来診療以外のサービス(初診から1年後)

利用サービス	人数	割合
0.なし	182	87.08%
1.デイケア・ナイトケア・ショートケア	3	1.44%
6.訪問看護	1	0.48%
8.心理カウンセリング	11	5.26%
9.自立支援法に基づくサービス	3	1.44%
10.その他	9	4.31%
合計	209	

現在通院中の患者の日中活動状況を尋ねたところ(図10)、4分の1が常勤就労中、8%が非常勤就労中、通学中が6%、主な家事を担当しているが23%であった。特に何も活動していないが4分の1、休職・休学中は8%であった。

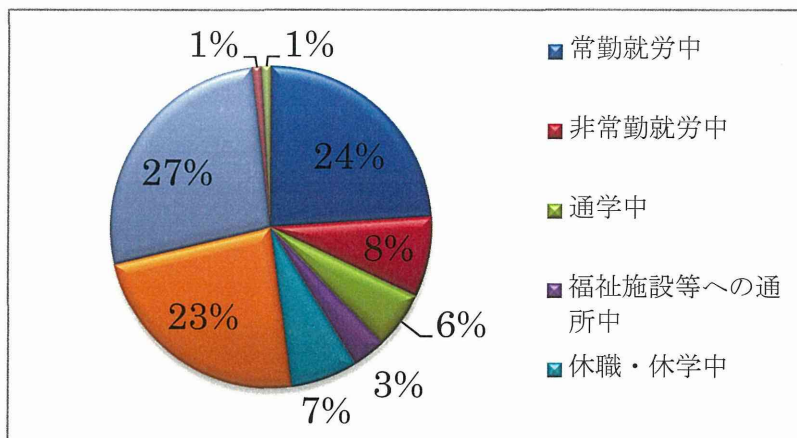
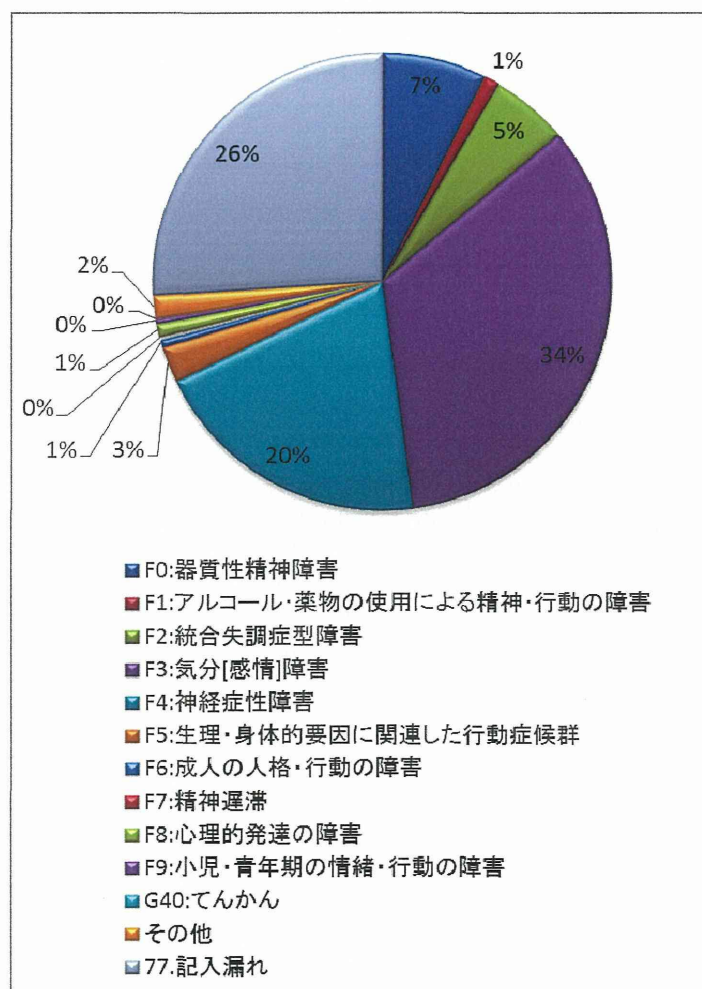


図10 活動状況

初診時の活動状況と、半年・一年後の活動状況を比較したところ（表 30）、半年の間に活動状況に変化のあった患者が少なくないことがわかる。特に休職・休学中で受診した患者 22 人のうち、7 人は常勤就労に戻っていた。しかし、5 人は退職に至ったのか、現在何もしていない。

表 30 初診時と半年後・一年後の日中活動の比較

日中活動			常勤就労中		非常勤就労中		通学中		福祉施設等への通所中		休職・休学中		主な家事を担当		特に活動していない		合計
初診時	常勤就労中	半年後	77	67.5%	15	13.2%	0	0.0%	1	0.9%	12	10.5%	4	3.5%	5	4.4%	114
		1年後	37	32.5%	4	3.5%	0	0.0%	0	0.0%	7	6.1%	4	3.5%	12	10.5%	72
	非常勤就労中	半年後	5	20.8%	13	54.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	20.8%	1	4.2%	24
		1年後	1	4.2%	6	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	8.3%	2	8.3%	0	0.0%	13
	通学中	半年後	0	0.0%	1	2.6%	30	78.9%	0	0.0%	7	18.4%	0	0.0%	0	0.0%	38
		1年後	1	2.6%	1	2.6%	10	26.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.9%	17
	福祉施設等への通所	半年後	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
		1年後	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
	休職・休学中	半年後	7	31.8%	0	0.0%	1	4.5%	1	4.5%	7	31.8%	1	4.5%	5	22.7%	22
		1年後	6	27.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	9.1%	4	18.2%	0	0.0%	14
主な家事を担当	半年後	5	6.9%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	48	66.7%	16	22.2%	72	
	1年後	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	33	45.8%	8	11.1%	48	
特に活動していない。	半年後	3	3.3%	5	5.4%	1	1.1%	6	6.5%	5	5.4%	5	5.4%	67	72.8%	92	
	1年後	4	4.3%	5	5.4%	2	2.2%	4	4.3%	3	3.3%	6	6.5%	33	35.9%	57	
合計	半年後	97	26.6%	37	10.1%	33	9.0%	10	2.7%	31	8.5%	63	17.3%	94	25.8%	365	
	1年後	50	24.4%	17	8.3%	12	5.9%	7	3.4%	14	6.8%	49	23.9%	56	27.3%	205	



半年後通院中の患者の主病名（図 11）は、記入漏れが 1/4 あったものの、気分障害が最も多く 34%、次いで神経性障害 20%であった。器質性障害（7%）が統合失調症（5%）よりも多かった。一年後通院中の患者の主病名（図 12）においても、同じような分布であった。

初診時の調査と変化があったかどうかを見ると（図 13）、病名が変更になっている患者が少なくないことがわかる。初診時の主病名から半年後の調査にて主病名が変わり、さらに 1 年後の調査においても主病名が変わっている患者が 7%であった。

年代別に診断名の変化に違いがあるかどうかを調べたところ（図 14）、未成年と 60 代において診断名の変化が起きやすい傾向が窺えた。

図 11 半年後の主病名

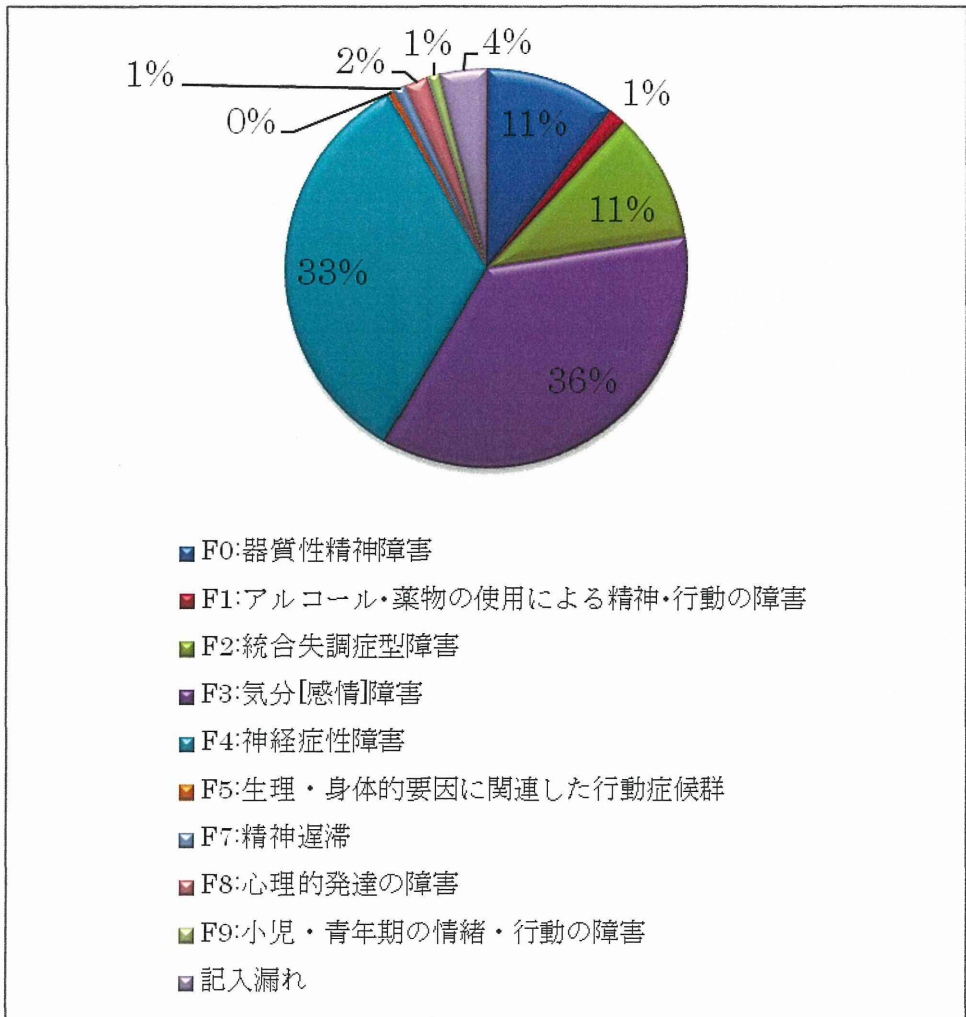


図 12 一年後の主病名

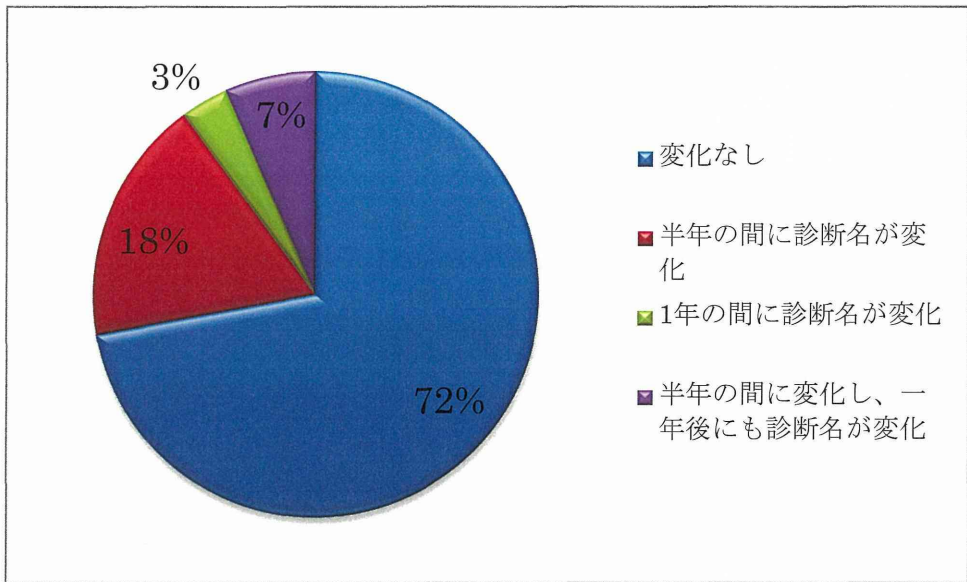


図 13 主病名の変化

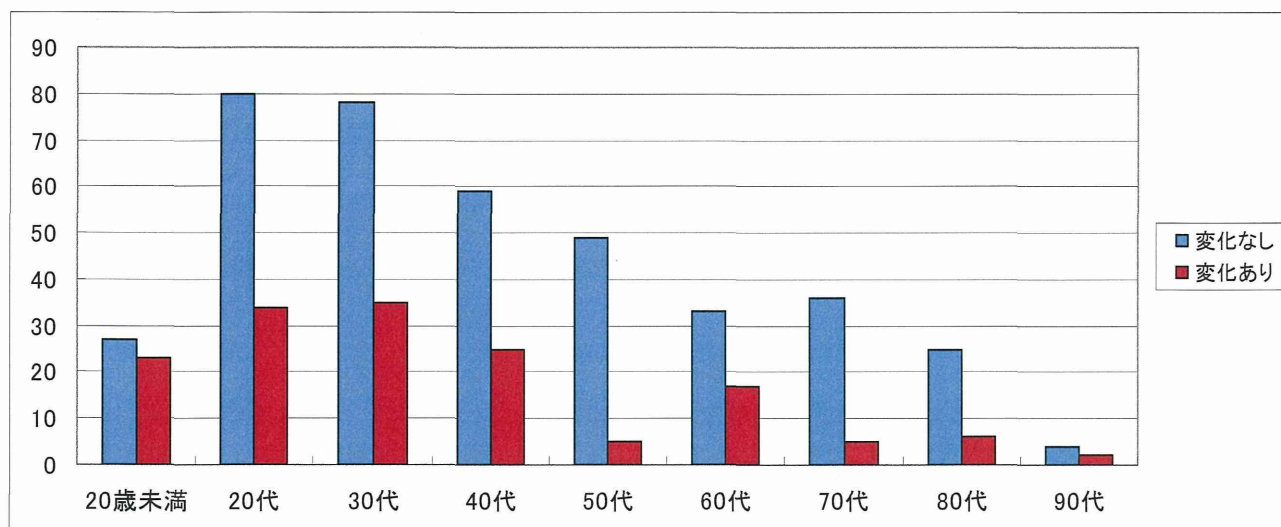


図 14 年代別，一年後までの診断名変化の有無

次に，現在通院している患者について，精神症状評価と能力障害評価の 2 軸評価と，7 項目からなる生活障害評価を取った(表 31)。評点は 1~2 が多く，比較的症状の軽い人が多いことが示唆された。しかし，一部精神症状評価，能力障害，生活障害のいずれも重度の人が含まれている。

それらの評点の因子分析の結果(分析 1)，因子数は 1 と見なされ，すべての項目がほぼ同じような動きをしていると言えた。そこで，すべての項目を足しあわせた数値を「症状の評価」として，以降の分析を行うこととした。

表 31 2 軸評価と生活障害評価の評点

評点	精神症状 評価(人)	能力障害 評価(人)	食事(人)	生活リズム (人)	保清(人)	金銭管理 (人)	服薬管理 (人)	対人関係 (人)	社会的適 応を妨げ る行為 (人)
1	59	70	104	86	100	120	108	73	129
2	61	85	38	72	45	31	47	57	42
3	51	24	42	21	35	25	19	46	14
4	15	9	3	8	4	4	9	8	2
5	3	3	4	3	4	8	4	4	1
6	2	-	-	-	-	-	-	-	-
平均	2.20	1.90	1.77	1.79	1.76	1.66	1.68	2.01	1.43

◆分析 1 22 軸評価と生活障害評価の因子分析  
各質問項目の相関

	(1)	(2)	1	2	3	4	5	6	7
(1)精神症状評価	1.00								
(2)能力障害評価	0.84	1.00							
1 食事	0.75	0.78	1.00						
2 生活リズム	0.77	0.77	0.77	1.00					
3 保清	0.79	0.81	0.86	0.78	1.00				
4 金銭管理	0.71	0.75	0.74	0.69	0.84	1.00			
5 服薬管理	0.69	0.74	0.75	0.74	0.81	0.81	1.00		
6 対人関係	0.80	0.75	0.72	0.70	0.72	0.62	0.67	1.00	
7 社会的適応を妨げる行為	0.63	0.60	0.65	0.59	0.67	0.61	0.67	0.60	1.00